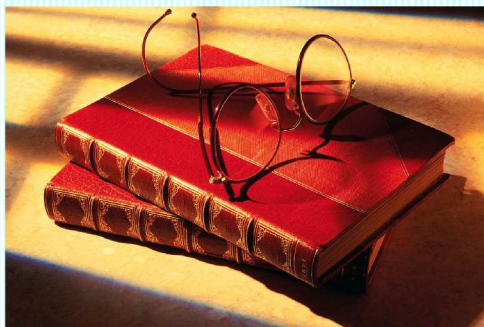


卒業生へのブックリスト



～卒業・修了おめでとうございます！～

これから世界に旅立つ皆さんに、社会に出る前に読んでほしい本、20代までに読んでほしい本などを先生方を選んでいただき、ブックリストにまとめました。

ぜひ、今後の読書にお役立て下さい。

2010.1

ブックリストにご協力頂いた先生方

電子情報工学研究系

- ◆小田部荘司先生
- ◆藤原暁宏先生

システム創成情報工学研究系

- ◆藤尾光彦先生

機械情報工学研究系

- ◆高橋公也先生

人間科学系

- ◆石橋邦俊先生
- ◆中川勝昭先生
- ◆西野和典先生

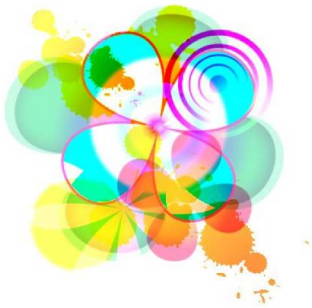
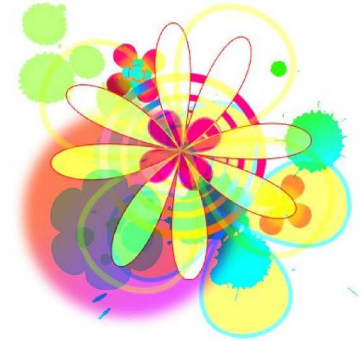
情報創成工学研究系

- ◆大石英貴先生

保健センター（臨床心理士・カウンセラー）

- ◆菊池悌一郎先生

ご協力頂いた先生方に感謝を
申し上げます。



小田部荘司先生(電子)のおすすめ

◆『ディアスポラ』 グレグ・イーガン著 ハヤカワ文庫 SF (933.7 || E-2)

「30 世紀、人類のほとんどは肉体を捨て、人格や記憶をソフトウェア化して、ポリスと呼ばれるコンピュータ内の仮想現実都市で暮らしていた。(内容紹介より)」情報工学部にいると情報工学の発展には期待をしますし、これからどんなことが起るのかというのいろいろと予想したくなります。不死を得るために、人間は情報であると考えれば、肉体はいらずにコンピュータ上にいればいいわけですね。そんなアイデアはSFではずいぶん昔からありますが、このグレグ・イーガンのSFはそんなアイデアは当然のこととして、さまざまなアイデアが満載で、とても一回読んだくらいでは全部を理解できません。常にあるのは自分探しがテーマとなっています。人間とは何か。自己とは何か。

完璧なハード SF です。そしてさまざまな文学形式の中で、SF でしか味わえないぶっとび感と感動があります。

藤原暁宏先生(電子)のおすすめ

◆『うらおもて人生録』色川武大著 新潮社 (914.6||I-45)

20 代に「生きていくための技術」を学んだ本です

◆『プログラマのための論理パズル』Dennis E. Shasha著 オーム社 (548.96 || S-29)

論理的思考能力を養うためにはうってつけの本だと思います

藤尾光彦先生(システム創成)のおすすめ

- ◆『坂の上の雲』 司馬遼太郎著 文藝春秋 (913.6||S-30||1~6)

若かった頃のひたむきな日本が描かれています。

- ◆『連続群論(上・下)』 ポントリャーギン 岩波書店 (415.4 || P-2)

学生のとき助手の先生から、読みにくいと脅されていましたが、必要があつて「被覆空間」の箇所だけ読みました。抽象的な概念が、一歩、一歩目に見えるように構成されていく記述に感動した覚えがあります。文学と同様に数学もロシア人のもの(アーノルド「古典力学の数学的方法」など)は重厚です。けれども、じっくり読むことを厭わなければ、決して難解というわけではありません。名著と呼ばれるものは読むべきである、と実感した一冊です。ポントリャーギンが失明していたことは後になって知りました。

高橋公也先生(機械)のおすすめ

- ◆『物理学とは何だろうか(上・下)』 朝永振一郎著 岩波書店 (081||I-1||85, 081||I-1||86)

科学の本質とその発展を深く知るには最も最適な本。

産業革命において技術と科学がどのように関連しながら発展してきたかを知ることが出来る。

- ◆『ある気象学者の一生』 藤田哲也著 (451||F-1||A)他

九工大(明専)出身でアメリカに渡り竜巻の研究をした世界的な気象学者の自伝

石橋邦俊先生(人間科学)のおすすめ

- ◆『楽は堂に満ちて』 朝比奈隆著 音楽之友社 (762.1||A-1)
- ◆『厄除け詩集』 井伏鱒二著 筑摩書房 (911.1||I-1)
- ◆『私の中の流星群』 草野心平著 筑摩書房 (914.6||K-8)
- ◆『孔子伝』 白川静著 ※『白川静著作集 6』(222||S-3||6)に収録
- ◆『天に送る手紙』 森敦著 小学館(絶版)
- ◆『戦艦大和ノ最期』 吉田満著 講談社(916||Y-18)
- ◆『古詩選』(新訂中国古典選 13) 朝日新聞社 (082||C-1||13 本館所蔵)
- ◆『荘子』(新訂中国古典選 8,9) 朝日新聞社 (082||C-1||8, 082||C-1||9 本館所蔵)

中川勝昭先生(人間科学)のおすすめ

- ◆『解読! アルキメデス写本』 リヴィエル・ネッツ/ウィリアム・ノエル著 光文社 (410.2 || N-3)
- ◆『アンティキテラ 古代ギリシアのコンピュータ』 ジョー・マーチャント著 文藝春秋 (購入予定)

どちらも現代の画像撮影・処理技術が、古代ギリシアの科学を蘇らせる物語。前者は、一度削られて別の文書が上書きされたアルキメデスの写本の解読が、後者は、歯車のついた古代ギリシアの機械の復元が扱われている。あらゆる手を尽くして元の姿を再現しようという男たちの熱意に惹きつけられてしまう。どちらも古代ギリシアの科学の格好の入門書でもある

西野和典先生(人間科学)のおすすめ

◆『映画でなぞるアメリカ史』吉浦 潤次著(購入予定)

アメリカ史を映画で説明しています。

アメリカの西方への拡大, 南北戦争, 奴隷問題, ネイティブアメリカンの行方などが, わかりやすく映画で説明されています。

これまで観たいいくつかのアメリカ映画が, この本を読むと, アメリカ史の観点から解釈できるようになります。

映画を観た当時, 理解できなかった映画の時代設定や, ストーリーの隠された意味がわかり, もう一度, 映画を鑑賞し直したくなります。興味深いおすすめの本です。

大石英貴先生(情報創成)のおすすめ

◆『富の未来(上)(下)』トフラー, アルビン・トフラー, ハイジ著 講談社 (304||A-9||1, 304||A-9||2)

これからは IT を使って消費者が企業の代わりに生産活動も行う、生産消費社会になります。さらに、消費者同士で無償で交換する非金銭経済も大きくなっています。IT の与える社会への影響について、歴史的な認識も踏まえた視点を備えた良書です。

◆『フラット化する世界[増補改訂版](上)(下)』

トーマス・フリードマン著 日本経済新聞出版社 (361.3||F-2||1, 361.3||F-2||2)

グローバル化と IT によって世界中の人に機会が与えられるようになり世界がフラットになりつつあります。生活者としては便利になると同時に、働く社会人としては競争相手が増えます。日本国内のニュースでは伝えられない世界の変化の事例が満載の良書です。

◆『資本主義と自由』ミルトン・フリードマン著 日経 BP 社 (332||F-2)

金融危機に対する過剰な反応として自由主義が批判されています。しかし反動として規制の多い社会を選ぶことは愚かです。それを 40 年以上前に論じたフリードマンは何度読んでも目からうろこが落ちます。政府が手を出す必要のないことを具体的に列挙して、読みやすい上に奥も深い良書です。

菊池第一郎先生(保健センター)のおすすめ

◆『精神の生態学 改訂第2版』G・ベイトソン著 佐藤良明訳 新思索社 (389||B-5||2)

一生付き合える友人や配偶者を持つのは、人生を豊かにするうえでとても重要ですが、本に関しても同様と思います。この本は、まさに「一生もの」です。僕が初めてこの本に出会ったのは大学4年の秋、大学の図書館でした。著者のグレゴリー・ベイトソンは、人類学者ではありますが、そのフィールドは、ある時はニューギニアやバリの島々、ある時は動物園や精神病院、ある時はクジラやイルカのプール、ある時は娘との対話…、と学問領域にとらわれず自由であるのですが、その思索は、深くて広く、そして独創的であると思います。しばらく絶版状態でしたが、どうしても手元にほしくて神保町の古本屋街を探しまわった思い出もあります。2000年に改訂第2版が出て手に入りやすくなりました。じつは僕もまだ十分に理解できていないのですが、じっくり一生かけて読み込んでいくのが楽しみであります。

先生おすすめ

◆『侏儒の言葉』芥川竜之介著 岩波書店 (081 || 1-4-3 || 70-4)

あまりに物の見方がシニカルで、そのシニカルさで自分自身も否定してしまった著者の遺書代りのメッセージ。頭が良すぎて困っている若い人に。

図書館員のおすすめ

◆『また会いたい』と思われる人の38のルール』 吉原珠央著 幻冬舎 (361.4||Y-10)

簡単な方法を具体的に教えてくれます。「人格を変える」のではなく「そういう人格だとみなされる行動に変える」のでいいと言われると、無理なくチャレンジできそうです。あくまで処世術と割り切って読んでみてください。ありのままの自分を出せる場所を作る事もお忘れなく。

【編集・発行】

九州工業大学附属図書館

情報工学部分館図書係

2010年1月（初版）

tos-jhotosyo@jimu.kyutech.ac.jp